

品質性能試験報告書

試験名称	枠組壁工法用接合金物を使用した接合部の引張試験						
依頼者	株式会社 栗山百造						
試験体 (依頼者 提出資料)	1. 接合金物 商品名：2×4用チビクリⅡ 2×4CKⅡ 用途：たて枠脚部に使用する金物 寸法：30×30×65mm，厚さ1.6mm 2. 接合具 たて枠側木ねじ：クリ平頭ビス5×45，3本使用 下枠側木ねじ：クリ平頭ビス5×120，3本使用 3. 枠組 たて枠：枠組壁工法構造用製材，JAS甲種枠組材2級，樹種；S-P-F，寸法；38×89mm，2本 下枠：枠組壁工法構造用製材，JAS甲種枠組材2級，樹種；S-P-F，寸法；38×89mm，1本 床合板：構造用合板，JAS1類1級，厚さ；30mm 床根太：枠組壁工法構造用製材，JAS甲種枠組材2級，樹種；S-P-F，寸法；38×140mm，2本 4. 試験体数7体（うち1体は予備試験体） 参照：図-1及び図-2（試験体の形状・寸法）						
試験方法	「2007年 枠組壁工法建築物構造計算指針」（発行：社団法人日本ツーバイフォー建築協会）の第V編「材料及び接合部の許容応力度等を定める試験・評価方法とその解説」の1.2.3「接合部の基準許容応力及び基準終局耐力並びに基準剛性（繰り返し加力接合部試験によるもの）」に準じて行った。その詳細を図-3に示す。						
試験結果	試験体		試験許容応力時		試験終局耐力		試験剛性 (K) kN/cm
	記号	番号	(Py) kN	(δ_y) mm	(Pu) kN	(δ_u) mm	
	24CK2	0	6.9	0.9	10.9	30.0	76.7
		1	6.8	1.1	10.5	28.3	61.8
		2	7.3	0.8	11.4	20.7	91.3
		3	8.2	0.5	10.8	25.1	164.0
		4	8.2	0.8	11.1	24.5	102.5
		5	7.8	0.9	11.3	21.8	86.7
		6	7.3	0.8	10.6	27.9	91.3
	平均	7.6	0.8	11.0	24.7	99.6	
標準偏差 s		0.56	0.19	0.37	3.09	34.32	
5%下限値		6.3		10.1		—	
基準値		基準許容応力 4.2	—	基準終局耐力 10.1	—	基準剛性 99.6	
(注) 基準許容応力は試験許容応力の5%下限値に2/3を乗じた値であり，基準終局耐力は試験終局耐力の5%下限値である。また，基準剛性は試験剛性の平均値である。なお，5%下限値は次式より求めた。 $5\% \text{下限値 } TL = \chi - k \cdot s$ ここに， χ ：試験耐力の平均値，s：標準偏差，k：2.336 (n=6) 参照：表-1 (2/3Pmax時，最大荷重時及び破壊状況)，図-4 (荷重-変位包絡線の比較) 図-5 (荷重-変位曲線，包絡線及び完全弾塑性モデル)，写真-1～写真-6 (破壊状況)							
試験期間	平成22年12月21日						
担当者	構造グループ 統括リーダー 高橋 仁 試験責任者 守屋 嘉晃 試験実施者 森田 薫，高橋 慶太						
試験場所	中央試験所						